

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チョダ地域保健推進賞」

活動テーマ

離島で子育てををするお母さんたちへの支援
～離島で暮らす子どもとお母さんのために保健センターができること～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

南大東村福祉民生課保健センター

代表者：向山 千賀子

勤務先：南大東村役場

所 属：福祉民生課 保健センター

所在地：〒901-3804

沖縄県島尻郡南大東村字南 144-1

TEL：09802-2-2116

FAX：09802-2-2813

E-mail：hokenshi-2.vill@mianmidaito.jp



◇活動方針

南大東村は沖縄本島の東方海上約360kmに位置する孤島で、農業と水産業を中心に人々の生活が営まれている小規模な島です。島の人口は1,305人（平成26年4月）、島で暮らす15歳以下の子どもの数は191人です（平成26年8月）。島の風景は、公共機関や民家が集合する一部の地域を除けば、広大なさとうきび畑と島の固有種であるダイトウビロウ、防風林となってくれるリュウキュウマツやフクギなどによる豊かな緑の広がりです。島の外周は珊瑚礁の堆積によって出来た岩場に囲まれ、その一歩先に深碧の美しい海が広がります。

島と沖縄本島を結ぶ交通手段は小型機もしくは長距離船です。本島までは飛行機で約1時間、船で約12時間を要します。

島の子どもたちは3歳で保育園に入所し、4歳になると村立の幼小中一貫校に進みます。少人数なため幼稚園生から中学校まで全員が親しいスクールメイトであり、ともに中学卒業までの学校生活を送ります。村には高校がなく、子どもたちは高校進学と同時に生まれ育った島を出て、親元を離れて本島で独立生活を始めます。

活動成果報告書

南大東島の子育ては、あわただしい現代社会の子育て事情とは一線を画し、雄大な自然と温かい地域社会に見守られながら、ゆっくりとした時間の流れとともにあります。しかしその一方で、離島であるが故に乳幼児の育児や保健に関するサービスに携わる専門職の絶対数が少なく、母親へのきめ細かな育児支援サービスが届きにくい側面があります。

南大東島では、子どもの両親が就業する場合は1歳3か月児から保育園への入園が認められますが、1歳3か月児未満の子どもを育児する母親は基本的に自宅で育児をすることになります。島のお母さんたちの中には、結婚を機に島に移住してきた女性や、夫の転勤に伴い島に滞在している女性など、離島という隔離された生活環境に慣れる間もなく育児をしているお母さんがいます。核家族や母子世帯で複数名の子どもを育てているお母さんもいます。島外から来て第一子を育てているお母さんは、初めての妊娠や出産、それに続く初めての子育てに迷い戸惑いながら奮闘しています。離島という環境では、子どもを保育園に入園させるまでの間、子どもを遊ばせる場所やほかの母親と接点を持つ場所も少なく、育児をするお母さんが自分のために時間を過ごす場や機会がなかなか得られません。島にある限られた商店で、子育てに必要な物が全てすぐに揃うというわけにもいきません。

また、子どもの成長発達や自身の育児ストレスなどについて相談する場も少なく、子どもの社会性や成長過程の特徴を確認し、子どもの成長を見つめ、日ごろの育児を肯定的に捉えるなどの機会も多く持つことができません。閉塞された社会であるが故に気軽に相談できなかつたり、子育ての方法に行き詰まったり、正しい知識が広く周知される機会がないまま少人数の中で子どもの成長を比較してしまったりと、育児をする母親がときに孤立感を深めてしまう場合もあります。

◇活動内容とその成果

このような状況を踏まえ、南大東村保健センターでは、これまで外の離島町村に先駆けて臨床心理士や発達支援専門相談員等を積極的に招聘して育児カウンセリングを行ってきました。また実際に地域で子育てをしている現役の母親に、母子保健推進員として保健センターに常駐してもらい、平成25年度から母子保健推進員を中心とした育児サークル「すくすく広場」を保健センターにて開始しました。毎回のサークルは母子保健推進員のアイデアによって親子で楽しめるイベントや工作などのプログラムが行われ、保健センターは「敷居の高い場所」から、徐々に「お母さんと子どもが集まれる場所」として浸透し、今ではサークルへの参加者の数も増えました。サークル実施日に保健事業を乗せることで、育児カウンセリングや身体計測などの利用率も高くなりました。当初は「相談」「カウンセリング」などの言葉に躊躇し利用を戸惑っていたお母さんたちも、今では「誰でも利用できるもの」という雰囲気が広まり気軽に利用してくれるようになりました。

また、サークルの開始と同時に月刊誌を発行するようになり、妊娠中～小学校入学前の子どもがいるお母さんたち全員に毎月手配りで配布するようになりました。月刊誌では、サークルや予防接種や保健事業、幼稚園の園庭開放日や島の行事、保健センターに届けられたリサイクル品の情報などについても周知を行い、お母さん同士の情報交換に役立ててもらえるようになりました。

活動成果報告書

◇今後の計画

今後、南大東村保健センターでは、①参加者のニーズに合わせてサークル活動の質的充実をはかること、②子どもの発達上の問題や母親の心理的なストレスの兆候を見逃さないこと、③子どもや親の健康問題にサークルを通して介入すること、④保育園、幼稚園、学校教育委員会や診療所、外部の専門化と適切に連携すること、を目指して活動していきます。具体的な活動目標を次に掲げます。

(1) 「すくすく広場」の充実

現在は毎月8回のサークルを実施しています。今は母親同士が交流する場となり、参加者は季節の行事や親子遊びなどを楽しみ、保健センターからは保健事業の周知や、同日に育児カウンセリングの開催などを行っています。今後はこのサークルの質的充実をはかって人をさらに多く集め、そこに歯科相談や母親教室などこれまで以上に多くの保健事業を盛り込むことで、サークルを通じて育児サービスや保健サービスが提供できるようなシステム作りを行います。

(2) 子どもと保護者の健康問題への介入率を高める

乳幼児健康診査の結果や島診療所医師との情報交換により、農業活動に伴う小児の喘息発作や、齲歯率の高さ、保護者のアルコールやタバコなど、島の子どものみならずの疾病特性や島の健康問題の傾向が明らかになってきています。そこで、平成26年9月から、診療所医師との共同研究で、子どもたちの喘息発作に関するコホート調査を行い喘息予防に取り組みます。調査のための情報収集や結果によって得られた喘息予防のための周知にも育児サークルを活用する予定です。

また島は3歳の齲歯率が高いため、サークルイベントの一環として歯科衛生士による歯磨き指導を組み込みます。その後は、保護者への飲酒喫煙や生活習慣病、生活リズムなど徐々に範囲を拡大し子どもと保護者両方の健康問題に介入を進めます。

上記の活動により、離島という特殊な環境下で育児をしている母親のニーズに応える育児支援の内容が拡大されます。また、定期的に保健事業を便乗させることで子どもと保護者への健康上の問題に介入する機会が得られます。育児カウンセリングなどこれまで島になかった事業でもサークルを通すことで母親が気軽に利用できるようになります。診療所や島内外の専門職と協力することで正確な情報収集と共有、支援方向の決定ができるようになります。対象となる子どもや母親の数が少ないために量的評価は不可能となりますが高い質的評価が得られることを確信しています。

このプログラムでは、離島という特殊な環境下にいる母親が求めるニーズに応え、育児にかかるストレスや閉塞感を軽減し、本島とかわらないサービスを受けながら育児ができるようになることを目標に支援を行うプログラムです。小さな島であることの利点を生かし、母子保健推進員から島の医療機関、教育委員会、島外の専門職種まで多彩な領域を巻き込んで離島での育児を多角的に支援していきます。